

交通安全

ぼくしない
どうろのとびだし
わるふざけ

西部会場掛川に集う スカウト 3,500名

ボーイスカウト 静岡大会盛大に挙行 ガールスカウト



紹介

浜松地区組織拡張副委員長

浜松第15団々委員長

山中 将司氏



昭和40年3月松江町林屋本店林育成会長と情熱を傾けて結成され副団委員長に就任引続き団委員長の要職にあり地区組織拡張副委員長も兼務されています。15団 100名近いスカウト、育成会員、リーダー、団委員より全幅の信頼感とリーダーシップを常に発揮され毎月の団委員会団会議は申すに及ばず隊キャンプ地区委員会にも必ず出席するボーイスカウト精神の最高の護持者と確信する次第です。スカウトに接するに温和の中にも一本筋を通した毅然たる態度を持ち真に頼もしい人物であります。

NSKベアリングの代理店山中産業(株)の取締役社長として仕事にも厳しい一面 絵画の鑑賞力鋭く、又仏蘭西のクロマチックアコーディオンを弾く仲々音楽的センスに富んでおり、アルコールが入れば

ソフトなムードとウイットに富み家庭にあっては二男一女のよきパパでもあり長男はローバースカウト、次男はカブスカウトで活躍し長女はブラウニー時代を過し弟さんは可美1団の副団委員長の要職にあり代表的なスカウト一家と申されましよう。昭和47年5月には県連より有功章を授与されるという15団にとっても自他共に誇り得る真に得難い団委員長と云うべき方であります。又浜松ライオンズクラブの社会福祉委員長としても活躍している。人生50才の働き盛り、事業にもスカウト活動も氏の行く処常にバイタリティーと抜群の行動力を持ち浜松15団永遠の団委員長たらん事を切望してやみません。

現住所 浜松市松江町72番地。

(15団組拡委員 梶田栄治記)

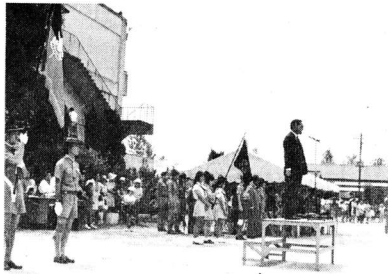
昭和48年6月1日、掛川市掛川中央小学校々庭に於て昭和48年度ボーイスカウト、ガールスカウト静岡県大会(西部会場)が好天に恵まれて盛大に挙行された。

例年県大会は同一会場に県下より全員参加して行われていたが、本年はいろいろな角度で検討した結果、東中西部に分かれ集し易い場所に多数の参加を得ようと試みられたものである。

西部会場には掛川市を中心として行われることとなり、その会場は中央小学校に決定されたものである。

定刻の10時よりや、おくれでBS浜松浜名・磐田・北遠・掛川の各地区、静岡第26団、ガールスカウト等スカウトリーダー 3,500名の参加によって、式次第により開始された。

静岡第26団の鼓隊によるファンファーレに依って開会、国旗掲揚、国歌斉唱のあと県連尾崎副理事長、GS静岡県支部長、竹本代議士、榛葉掛川市長、戸塚県議、市川県議、稲森県連理事長等あいさつ及び祝辞が夫々述べられ、スカウト活動の意義と団結と今後どうあるべきか等が強調された。



開 会 式

次いで県連有功章を尾崎副理事長より掛川地区協議会長・内田秀次、浜松地区市川重雄、磐田第4団小林委員長、浜松第21団・土井庸一の各氏に授与された。

スカウト宣言、BSの連盟歌、GSの世界のわれらの合唱が行われ、いよいよ参加者全員による掛川市内パレードに移った。

鼓笛隊が随所に入って延々数キロに亘るスカウトの市内パレードに掛川の市民の皆さんも通行人もその威容にびっくりして歓送迎してくれた。

昼食後はラリーの部に入りCSは高天神の戦いと名づけられたカブト落しが始まった。新聞紙のカブトと棒で戦国の武将よろしく、小笠山の一角にそびゆる高天神城に展開されたいきを偲んでカブスカウトのたのしいひとときであった。

次いでボーイスカウトの手旗競技が行われた。これは最初ワイドゲームをして5人で1組の4チームをつくり、このチームのうつ手旗を解読する。それを点検するといったことを行うと共にスカウトたちの名刺交換も行ったのである。



高天神の戦い

最後はガールスカウト、ブラウニーに依るフォークダンスが始まるや父兄もボーイもカブも全員参加しての大きな輪がいくつにもひろがって、ファイナーレの一幕を飾ることが出来た。

閉会式には本日参加した隊に参加綴が授与されるとともに5年綴、10年綴なども該当団に授与されて無事予定通りの行事が済み、散会した。いずれにせよ天候に恵まれ、参加者も大変多く盛況裡に終ることができたのは喜ばしいことであった。



市中パレード

終りに地元掛川地区関係者の御尽力に對して深く感謝致したいと思います。



開会式であいさつされる尾崎副理事長

ハイクコースの紹介

『常光寺山 ▲ 1438.5』

浜松第4団年長隊

竜頭山よりさらに、77mも高い山と聞くと、中には尻込みする人もいるだろう。みぞれの竜頭山の経験のあるSSで今では山は見るものとした人もいからだ。5月5日～6日の連休を利用して、山登り初経験のスカウト3名を含め5名で登った。

新浜松 電車 西鹿島 バス 向市場 (水窪橋) 徒歩 河内浦……山住神社 (宿泊) ……門桁山分岐点1280………1300ピーク……山頂▲1438.5………937……上村……向市場 (水窪橋) バス 西渡 バス 西鹿島 電車 新浜松駅

食事は家にあるものを主として、不足分は山菜(わらび、うど、たらの芽、名も知らぬ草々)を利用した。みそを主とした、豚汁(鳥肉)みそしる等になった。向市場から山住神社は、立派な林道があるが、車を利用するより歩く方がよい。汗を流して見る大きな景色は、スカウト

でなければ味合えないものである。特にうっそうとした、こげにかこまれた岩の下から見るとの巣の様な滝や、新緑で暗くなっている道は歩く人に自然の偉大さが判る。河内浦から山住神社の道は、徳川家康の腰掛た岩や山菜で楽しくなる。

山住神社から常光寺山頂は、急な登りが続く。初歩の岳人のトレーニングコースだけの事はある。しかし、経験をつんだSSなら楽しみも増す。登る事に大きく広がる北遠の山々。道に残るケモノの足跡、広葉樹より針葉樹に少しづつ変わる木々。つかれた時の休憩にさけぶ「バカヤロー」の声。地図を見れば向い側の山は長野県である。山頂は雑木でかこまれ見晴しは良くないが「登った」と言う感じがする。このあたりは熊も出る。リュックにつけた鈴や、歌で元気をつける。山頂より向市場迄の下りは本当に長い。気象ロボットや、神社、しいたけで気はまぎれるが、歩いてても歩いてても水窪川が

見えないので、いやになる。この下りの道を、口笛をたやさず歩けるSSこそ、自然の楽しみを味合える。バスの時間に注意して歩かなければならない。なぜならば、我々は水窪橋で「2時間」も待ったからだ。かその町の交通のきびしさが身にしみて判った。

秋葉山、竜頭山、常光寺山と山は連なる。そして秋葉神社、竜頭山山小屋、山住神社と宿泊可能在所がある。充分な準備(訓練)をしたSSが「集中登山」したらどんなに素晴らしいだろう。秋葉神社、山住神社、そして山小屋から出発したスカウトが、元旦を竜頭山頂で会えるなんて考えてみても楽しい。しかし、その為には体力と、あらゆる気象条件で生きのびる準備(訓練)が必要である。

バイオニア+アドベンチャー+根生! これは良き社会人になるひとつのプロジェクトである。連盟歌の2番が痛切に感じる。

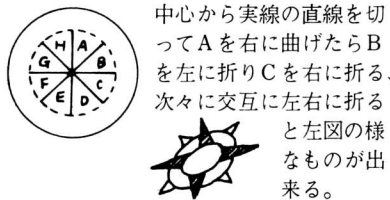
面白いクラブ

浜松第12団C S隊長 宮沢 広士

昔はおもちゃがすくなかったので子供達は自分で考えておもちゃを作り自分達でルールをきめて遊びました。今の子供達は大人から与えられるのを待っていると云う形になっています。これからの子供達に必要なことは考えたり工夫したり創造してゆく能力です。身のまわりにあるものをつかっていろいろな工作やゲームを考えてゆきたいものです。

こゝにそのいくつかを紹介いたしますので各自いろいろなものを作って作ってみましょう。

私達が子供の頃やった遊びにはよくこんなのがありました①図の様に円を描き

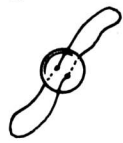


中心から実線の直線を切つてAを右に曲げたらBを左に折りCを右に折る、次々に交互に左右に折ると左図の様なものが出来る。

風のある時出来るだけ平らなグラウンドのところがすと、ころころとこころがってゆく。画用紙で作れば簡単に出来る。みんなで競争をさせたら面白い。

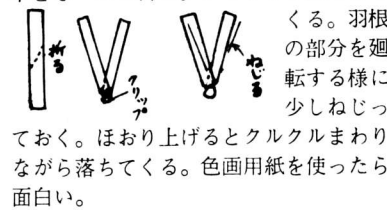
②カメラのいらぬ写真の話をしよう。これも昔の子供達はよくやったもの一つである。青写真の印画紙を板の上にのせその上に木の葉をおく更にその上にガラスの板をのせる約1分間太陽の直射光線にあてる。次に印画紙を浅い皿に入れて水洗いすると木の葉の部分は白くその他の部分は青く変色する。木の葉の代りに黒いボールペンか墨でセロファン紙に絵を描いても面白い。

③まわるボタン 図の様にボタンの穴に糸を通し最初すこすねじってから引っぱったりゆるめたりするとボタンはいつまでもまわりつづける。ボタンで



なくても牛乳のふたや自分でもっと大きい円状のものを作って色をぬつたらとても美しい。

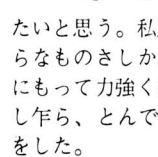
④羽根あそび これは羽子板の羽根の様なものですが大変簡単に出来る。細い画用紙をつくり真中をなゝめに折る。クリップで重りをつ



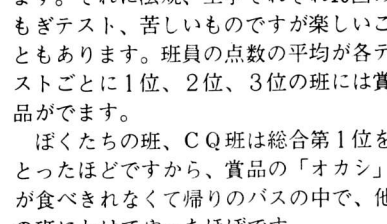
⑤空飛ぶ円盤 円い形の(中厚紙)ものを図の様にゴムにひっかけてとばすと、とてもよくとんでゆく。×の部分は巻むすびをする。



⑥風車 指の先につばをつけ、うすい経木又は画用紙をたんざく状に切ってあて走ると風車の様にまわる。



⑦ブーメラン これはオーストラリア等で行われているもので図の様にへへの字形になっているものが普通の様であるが、三叉状になったものもある。厚紙か木の板で作ってためして貰いたいと思う。私達が子供の頃は30cmの平らなものさしか、それによく板を図の様に



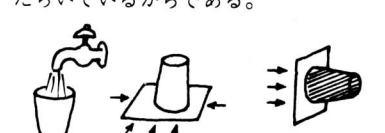
にもって力強く投げるとブーンと音を出し乍ら、とんでゆくのでよくそんな遊びをした。



⑧ポップガン 点線をのりで貼りつけたら、うすい紙を鉄鉋の部分の中に折込んで上から下にふり下すと風の勢いで折込んだ三角の部分がパンと音を立てて外部に出る。

⑨暗号解読 1枚のカーボン紙をカーボンのついた方を上にして置き、その上に2枚の便せんをおく。この3枚をクリップで止める1番上の紙に通信文をかく、暗号の通信文は2枚目の紙の裏にかかっている。それを解読するには、その紙を持って鏡の前に立てばよい。

⑩空気の強さをテストしよう。コップに水を一ぱい入れる。一枚の紙をのせて、さかさにする。コップの中の水を半分にしても紙は落ちないがコップを空にすると紙は落ちる。何故でしょうか。空気はあらゆる方向に同じ力で、はたらいているからである。



以上10ばかり面白い工作をかいてみました。君達も身のまわりにあるものから何か面白いあそびを考え出してみて下さい。

アマチュア無線に参加して

浜北第1団 中道 昌人

47年8月27、28、29、30日の4日間、ぼくは愛知県茶臼山ロッジにおいてアマチュア無線の講習会に参加しました。

ぼくたちの隊からの参加は、ぼくだけなので初めのうちは、なんとなくさみしいような心細い気持ちでした。

豊橋駅で班が生まれ、バスに乗り込みました。ぼくの班は班長、次長を入れて京都の人3人、名古屋の人1人、藤枝の人1人、それに浜北の人(ぼく)の合計6人でした。バスの中ではあまり話もしませんでした。しかし、日がたつにつ

れて互に心もとけ合い、楽しい4日間でした。

ロッジについてすぐから講習は初まります。それに法規、工学それぞれ10回のもぎテスト、苦しいものですが楽しいこともあります。班員の点数の平均が各テストごとに1位、2位、3位の班には賞品がでます。

ぼくたちの班、CQ班は総合第1位をとったほどですから、賞品の「オカシ」が食べきれなくて帰りのバスの中で、他の班にわけてやったほぼです。

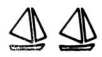
この4日間ほんとうに楽しいものでした。

家に帰ってから、しばらく関西弁がうつつってしまって、みんなにひやかされましたが。

今は関西弁もなおり、免許もきてゴキゲンな毎日です。

こんな楽しい講習会にあなたも参加してみようですか？

無線の勉強ができて、大阪、京都などの友ができる、ほんとうによいことだと思います。



残暑御見舞申上げます



<p>名誉役員 浜松市長</p> <p>平山博三</p>	<p>浜松地区協議会長</p> <p>内田六郎</p>	<p>浜松地区委員長</p> <p>内田時世</p>
<p>静岡県連コミッショナー</p> <p>内田嘉一</p>	<p>BS浜松地区副協議会長 法林寺住職 浜松第一幼稚園長</p> <p>吉沢純道</p>	<p>マーブル学園 音学科 体育科 女芸科 学芸科</p> <p>BS地区副委員長</p> <p>宮沢広士</p>
<p>BS浜松地区副協議会長 浜松第15団育成会長 浜松卸商団地理事長</p> <p>林良太郎</p>	<p>日連理事 県連理事 浜松第16団育成会長 三笠給食(株) カネイチ産業(株)</p> <p>市川重雄</p>	<p>地区財政委員長 12団副団委員長</p> <p>金森武夫</p>
<p>浜松第1団</p> <p>〃 〃 〃 〃 〃 C S B S R 〃 〃 〃 〃 〃 副 隊 隊 隊 隊 〃 〃 〃 〃 〃 長 長 長 長 長</p> <p>鈴木 天野 佐藤 広木 井ノ口 間宮 柴田 河原崎 増田 川上 渡辺 ふ 益 成 口 政 薫 敏 久 文 年 み 枝 子 孔 子 子 薫 敏 久 文 年</p>	<p>浜松第18団</p> <p>B B S 団 育 S S S 団 委 成 二 一 隊 員 会 長 長 長 員 長 長</p> <p>伊 福 増 一 伊 植 熊 世 田 同 熊 田 安 正 辰 正 正 雄 志 辰 治 甚</p>	<p>浜松第19団</p> <p>監 組 健 野 指 財 副 団 育 織 康 營 導 政 委 委 成 〃</p> <p>井平庄鈴八鈴小山袴竹山塚藤瀬鈴久野鈴牧 田賀司木木沢口田内崎田田美木保中木田 伸 太 弘 春 健 忠 げ 昭 輝 祝 俊 真 豊 郎 齊 雄 郎 夫 子 登 洗 二 夫 孝 清 恒 策 一 力 治 護 健</p>
<p>浜北第4団</p> <p>リ 団 育 ボー ー 委 成 イス ダ 員 会 カウ ー ト</p> <p>一 同</p>	<p>ボーイスカウト用品取扱店</p> <p>スポーツ用品全般・レジャー用品</p> <p>旭スポーツ店</p> <p>ボーイスカウト静岡県連盟浜松需品部 浜松市連尺町2 電話54-4301</p>	

第3回オーストラリアベンチャー 大会に参加して

浜松第12団年長隊

竹田 善次郎

12月20日の午後5時、オーストラリアのジャンボリー（第3回オーストラリアベンチャー大会）に参加するため、団長隊長と全国のシニアスカウト23名、総員25名で羽田を出発した。

途中、香港、マニラに給油のため一時降り21日の午前8時ごろ約17時間でシドニーに到着した。

午後5時から次の日の午前8時という、計算では15時間になるが時差の関係で2時間得をしたために17時間ということになる。

シドニーにて

シドニーというところはご存知のようにオーストラリア第1の都市である。ぼくたちは到着した日から3日間、観光のためにシドニーのYMCAに宿った。

最初の日は、シドニーの町を見学した。



浜松から4名の旅立ち

前にも述べたように、シドニーは最大の都市であるのだから、やはり人口も多いのだろうと思った。しかし、ぼくたちの行った日からちょうどクリスマス休暇に入ってしまったので町は実に静かであった。そういう意味で、本当のシドニーの町が見えなかったのは残念である。

2日目はシドニーから少し離れた、バスでおおよそ3時間ぐらい行ったところのブルーマウンテンに行った。こゝは広大な平野や、美しい山、谷などが一望のもとに見ることができて、すばらしいところであった。ここで偶然にも、ジャルパックのスチュワーデスさんに会った。大変話がはずんだ。

3日目、首都キャンベラへ日帰りで行ってきた。シドニーとキャンベラは飛行機で約1時間である。キャンベラという町は砂漠の中に作られた町で、ビルなどがきれいに整理されて美しい町であった。しかしハエの多いのには困った。キャンベラはとくにハエが多くて一人におおよそ2~30匹はついてたのではないかと思われる。日本のハエは追えばすぐ逃げるのに、向こうのハエは、なれなれしいというか、しつこいというか追っても追ってもすぐもどってくる。しかし向こうの人は、うるさくもないのか、ハエがきても無視している。こういう点では、まだ後進国であると思った。

シドニーでの3日間を終え、24日から27日まで、プリスペーンの家分宿に入った。

プリスペーンの家分宿

プリスペーン空港へ降りたら、観光の人達でいっぱいであった。次々と分宿

先を発表され、一人、二人、三人の組に別れてゆく。ぼくは運よく(?)分宿することになった。こゝで日本の仲間と別れ3泊4日の外人との生活をした。自満ではないが、ぼくは英語が得意ではない。うまくできるだろうかという不安と何かを得ようとする気もちが頭の中をいったりきたり……………。

分宿先の人達は良い人達であった。ミスタードッドというのが、パパの名前である。その他、ミセス・ドッドと5人の子どもがあった。その中でクライブ君というぼくと同じ年の子と仲よくなった。同じ年といっても背は高いし、がっちりとした体格である。彼もジャンボリーに参加すると書いていた。

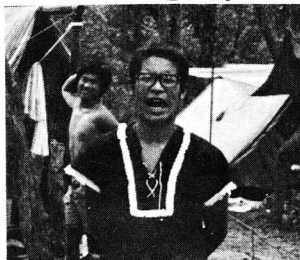
24日の夜、クリスマス・イブである。その夜、パパとクライブ君などと教会へ行った。初めて教会というところへ行った。夜の11時から式が始まる。約2時間。神父さんが出て来てお祈りをささげたり賛美歌を歌ったり……。不覚にも途中で寝てしまった。

向こうのクリスマスというと、何かおおげさなことをやるような感じを受けるがそのようなことはやらず、家族だけでひっそりとやる。多少期待していたのがっかりしてしまった。

その他家族の人達には、海や川、それと国立公園などへつれていってもらった。家族の暖かいもてなしは全く有難かった。家庭分宿も終わり、いよいよぼくたちの第1目的であったベンチャー大会へキャンプ入りする。

ベンチャー大会にて

キャンプ入りした日に、早くもハブニングが起きた。テントが届いていないというのだ。その場で約3時間待たされた。向こうの人達はルーズである。日本人とは感覚が全然違う。そんなこともあって、テントを立て始めたのが4時ごろ。ここでまたハブニングが起きる。



絶叫する竹田君

立て始めてから約30分ほどすると、今まで晴れていた空が急に曇ってきた。猛烈な雨がじき降ってきた。スコールである。雨はこの日ははさんで前の日と後の日。3日間にわたって夜だけ降った。雨を見たのは、この時だけである。

ともかく無事開会式もすませ、大会が始まった。

29日から3日間、最大の難関である移動キャンプ（スリーデイズアクティビティ）に参加した。ぼくの行ったところはオビオビというところで日本の仲間とは三人。あとは全部外国スカウトである。

言葉があまり通じないので（なんとかかなるき）という軽い気持ちで、寝具とあと必要と思われるものをほんの少しハバザックに入れて軽装で参加した。（これは大変な間違いであった。）

バスから降りたところが川の上流で、ここから下流まで、3日間歩きつづけた最初はみんなそろっていたが、徐々にバラバラになってきて、ぼくのグループは六人になってしまった。ぼくの他にもう一人日本スカウトのいたのは助かった。

なぜバラバラになってしまったかという雨のため川の水かさが増して川を歩いて渡れず、道具をもったまま泳いだりしたためである。おかげで寝ぶくろもテントもすべてぐちゃぐちゃ、ひどいめにあった。

食料も朝から毎食毎食クッキー5枚、苦しかった。バミューダをはいて参加したが、それが目的地に到着する前にすりきれたり、ストッキングとガーターが流されたり、はいていたくつに穴があいたり……。魔の3日間であった。

移動キャンプも終り、残りの日はブックキングという好きな競技をすることができた。ぼくは水上スキー、ゴルフ、スケート、つりE.T.C.、いろいろなものを行った。これは外国スカウトとの交流を深めることができ有意義なものであった。

キャンプ中は自由である。食事は作らなくてもよい。シャワーも近くにとりつけてあって好きな時に好きなだけ入ることができる。（日本でも毎回こういうキャンプだったらなあ）と思った。

このキャンプに参加した国は、オーストラリアの他に、ニュージーランド、アメリカ、日本、台湾とこじんまりとしたものだった。少ないだけに、どこの国の人達とも仲よくなった。キャンプは大変おもしろいまゝに幕をとり帰国することになる。

香港にて

1月7日、オーストラリアを出発するとニューギニアに給油のため一時降り、香港へ向う。香港は1月の9日までいた。着いた日は夜であったために大変美しい町であった。（さすがに百万ドルの夜景ということはある。）

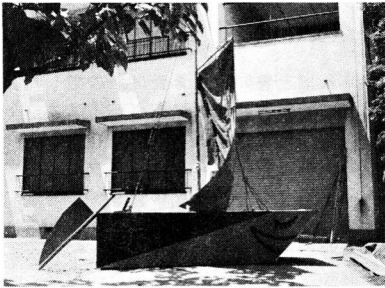
しかし次の日、観光してみてもびっくりしてしまった。空気はきたないし、空も海の水もすべてきたない。香港というところは、品物が安いだけで他には全く良いところなかった。

いよいよ香港での観光を終え、この20日間の旅行を振り返ってみると、初めて経験したことがなつかしく思い出された。

オーストラリアの最高温度46度、平均40度という猛烈な暑さ、物価が高く、もっていった小遣いもすべて使ってしまった。ハエが多くて全く困ったこと、など。とにかくぼくは、他の人達はあまりできないことをたくさん経験した。そういう意味で、こんどの旅行を有意義にすごせたことに満足している。

“作った 浮んだ!!”

浜松第4団SS隊

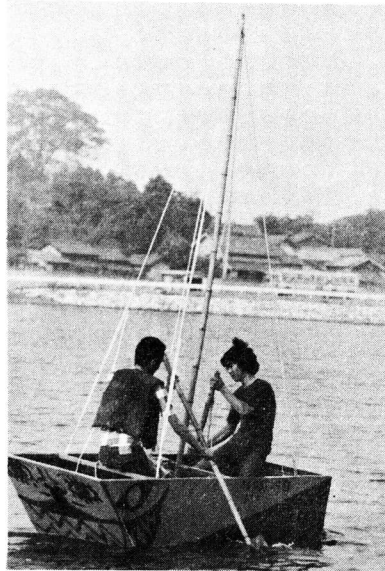


ようやく完成した箱船No.1

海、何を想像するだろう。男、ロマン冒険……そして夢。しかし、夢や希望は実現しなければならぬ。従来乗る事を主としてきた我々は、作る事(創造)の分野に進出した。だが、かなづちやかんなを手にした事のない者には、立派な図面や大きな船はむづかしい。寄ってたかって3人位乗れる箱船の図面をでっち上げた。重量とか体積を頭に入れ、考え出されたのが全長270cm巾60cm深40cmの物?である。

4月中旬、ようやく図面らしいものが完成し、下旬に材料が到着した。浮ぶのか沈むのか自信のないまま作り始める。自信がない事だからやる気が小さくなる。小人数のやる気のある高3(進学に自信のない?)の手で着実に作られる。そして6月3日どうやら本体が完成した。早速下気賀にあるハーバーで、水もれのテストをする。「浮んだ!」「水洩れは2カ所!」その時の気持は、自信のないま

ま作ったスカウトにとって、大きな収穫であった。水洩れを防ぎ、当初エンジンをつける予定であったのを帆をつける様



それこげ やれこげマイシッブ

にして作業は進められた。浮ぶとなると心強い。作業の人数もふえる。そして、とうとう6月24日、シューベルト(未完成)ながらも無名の船がハーバーで進水した。

ブルックワイド、と言われるSS活動

に創造性をプラスした記念すべき日であり、この未知の努力をしたスカウトの勝利の日である。船に乗る事は誰でも出来る。しかし、作って乗るこの課程を経る者は少ない。このプロジェクト(活動)こそ、シニアスカウトのアドベンチャーではないだろうか。

さらに欲を言うならば、かぎられた材料でカヌーを作り、各団対抗のペロン競争をしたらどうだろうか。

夢は果てしなく広がる。自信のある方は資料を提供します。野営、旅行、スキー等と、少し違ったさ、やかな創造活動を報告します。最後に、このハーバーの地主は、我々の活動に理解のあった細江第一団故・伊藤和助さんである事を忘れてはなりません。イギリスや、ニュージーランド、アメリカ、各国のSS活動を参考に我々は我々の出来る活動を、今後も続けたいと計画しております。



(主帆を上げる!)

我々の船は進む

国 の 旗

浜松第4団

野口 光一

日の丸の歴史は古い。本にみると、源平の軍扇に使われ、豊臣秀吉、徳川家康も使っている。しかしこれらの地色が必ずしも純白であり、日の丸が赤ではない様である。だが日本人が伝統的に日の丸という図柄を愛好していた事が判る。

徳川幕府の末期、安政7年(1854年)6月5日つぎの様な発令をしている。

- 一、御国総船印は、白紺布交の吹貫、帆は白地の中黒とする。こと。
- 一、幕府の官船は、日の丸旗を立てること。

ところがこれに対し、水戸の徳川斉昭候、薩摩の島津斉彬候が率先して、日の丸こそは日本を象徴するにふさわしいものと、強硬に主張したため、7月11日布令を出しなおしております。

「大船製造については、異国船にまぎれざるよう、日本総船印白地日の丸旗相用い候よう仰せ出され候」

そして、白地日の丸の旗がまず船から

掲揚されました。

1868年7月15日には、江戸が東京と改称され、9月8日から年号が明治になっております。その3年2月27日に政府は総船印であった日の丸旗の寸法などを定め、これを日本国旗とする旨の太政官布告第57号を出しました。

一、御国旗之事

右ハ決而取外シ候事不相成、附属之船舟ニ至迄、必可掲置事

一、毎朝西洋時規第八字ニ引揚ケ、夕方ニ日没迄ヲ限引卸スヘキ事

但、右御国旗引揚無之節ハ、船賊船之取扱請候而も申訳ナキ事、万国普通之公法タル事

一、御国国旗之寸法、別紙之通ニ候事但、大旗ハ祝日ニ引揚、平日ハ小旗引揚ケ、風雨晦暝之節ハ、小旗迄引卸置不苦候事

ちなみに別図によると、大、中、小旗ともに縦横の長さの比率は横十に対し縦

七で、日の丸の直径は縦の長さの五分の三。日の丸の中心は旗ザオの側へ、横の長さの百分の一だけずれています。(現在のスカウトブックとは違っている所もある)

明治5年3月、祝祭日に国民が国旗を掲げる事が法律で定められましたが、戦後それを禁止され、1947年1月からは自由になっております。そしてそれが今でも続いておりますが、国を表わすものはまず旗です。

国の旗でも年代、人によって考え方が違います。しかし、我々の国の旗である事に変わりはありません。我々スカウトが国の旗を思うには、スカウトの誓い、おきてによる事が大切だと思います。そしてその奥には感謝の心(宗教)、ふるさと、歴史があります。

7月20日、海の記念日に国旗を学ぶのもおもむきがあります。

青年活動からスカウト活動へ

浜北第4団 隊長 波多 桂二

私の青春時代の中で一番思い出に残るのは青年団活動でした。積極的に活動に参加するようになったのは22才位の頃からで、最年長の24才の時に団長に選ばれてしまったのです。そして現在の副長の川合猛君が、青年学級の運営委員長に選ばれたのです。その時には、青年団、青年学級共に協力し合い、行事を成功させるために、又青年の悩みなど話し合い、毎晩の様に遅くまで活動に励んだものでした。

現在の青年団の問題点は、目まぐるしく変わり行く世の中の発展に伴いレジャー産業が急激に発展し、若者はいつ、どこへ行っても金さえ出せば自由に遊べる状態にあり地域の青年はバラバラに散って行ってしまっている現状にあるのです。

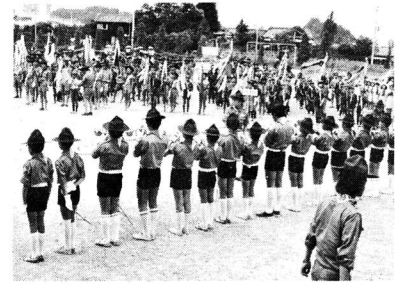
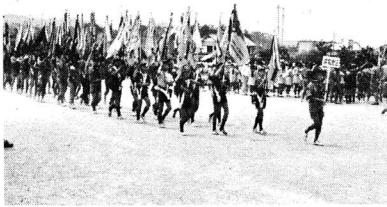
この様な中でも青年団員は、私達の地域の人達の意志の疎通と、よりよい町づくりにと頑張っているのです。

一年間の任務の中で心残りになっているのは、行事に追われて大きな問題に取り組めなかった事です。これには役員としての期間が短かったこと、リーダーとしての知識や実行力が不足していたこと。最年長の年齢が24才では早すぎる事等々が主な問題点となっています。

44年度の末頃、市の社会教育課より青年の団体やサークルの活動や個人的な相談にのってあげる青少年活動推進員になってほしいと声をかけられたのです。私としても未熟でありましたが、このまま青年活動を続けて行きたい気持ちと、青年団の先輩がほとんどですので、力添えが

出来ればと思い、引き受けたのでした。そして昨年北浜地区にもボーイスカウトを作ったらどうかと云う話しが持ち上がり北浜地区の推進員が主になって、ボーイスカウトの関係者に相談したりして、結成の運びとなった訳であります。ところが適当なリーダーがいなかったので、丁度私が指導者の資格があったので、この時より、リーダーとしてボーイスカウト活動に足を踏み入れた訳であります。

結成に当りスカウトの基礎訓練、ハイキング、そして待望の誓の式、結成式、夏には楽しくも又苦しいキャンプ生活、こうして将来の希望を担う子供達と共に私はいつまでも若い気持ちで活動を続けて行くつもりです。



県大会(西部会場)スナップ集

班長訓練野営

浜松第12団 小粥 克己

僕は今まで、キャンプが大嫌いだった。その為、キャンプ地での作業をなるべくさぼろうとしていて、色々な技術が身につけていなかった。

それで、グリーンパーではなるべく積極的にみようとしたので、たくさんものを覚えることが出来た。とくに設営の時の結索を覚える事が出来たのが、嬉しかった。

又、パトローリングの大切さもわかった。それは、班ハイクの帰りに、パトローリングはしていたが、個人個人の見る位置をしっかりと見ていなかった為、大事な通信文の一つ見忘れてしまったからだ。

僕にとっては、グリーンパーは大変大きな意味を持っていたと思う。おかげでキャンプが好きになれたし、ほんとうによかった。



班長訓練野営

浜松第12団 山本 勝己

3月22日、8時30分ぼくは、和地山グランドに立っていた。ぼくは、もうすぐ一級になれて班長になれるという希望で胸がいっぱいになっていた。そんなことを考えていた時、笛がなった。全員集合の合図だ。ぼくは、荷物を持って笛の鳴った場所に行った。

その集合の所には、望月君、篠崎君、木村君、小粥君の顔がみえた。しばらくすると、名前がよばれて、一班、二班、三班、四班、五班と出来上っていった。ぼくの班は、三班で、望月君、篠崎君、木村君、小粥君の12団のスカウトと、あと6団の竹内君、富田君、玉沢君であった。9時30分、貸切バスに乗りこんだ。バスの中では、話がはずんだ。しかし、ぼくは少し不安であった。

渋川は雨ではないだろうかという心配である。渋川は、前に一度合同野営の時行ったことがある。その時、雨がテントの中にはいつてしまっていて、寝袋がびしょりぬれてしまったことがあるからだ。

そんなことを考えているうちに、目的地についた。渋川は、さいわい晴れていた。バスからおり、荷物をしょって30分程歩くベースキャンプについた。そこですぐ、休息をとり、弁当を食べた。

そして開所式が始まった。開所式が終わると、すぐ設営にかかった。みんな分担を決めてやったが、なかなかうまくできず、一番おそくなってしまった。最初の班長は、望月君であり、次長は富田君だった。班長、次長は、当番制であった。班名は単であった。

三泊四日の中でいろいろなことを学んだ。見も知らない六団のスカウトと協力してやったテストハイク、夜の避難訓練といろいろなことをした。米の水かげん火かげんは、やさしいようでむずかしかった。そして長かったようで短かった班長訓練野営も終わった。

ぼくが、もっともこの野営で心に残ることは、協力ということです。



BS浜松地区指導者 研修野営に参加して

可美第1団々委員長 島 賢 司

私達の団は発足して6年目を迎え日本ジャンポリー、世界ジャンポリーを体験してまいりましたが、その後にはいて団活動が低調となり、このままでは折角のBS活動も意義がなくなる心配すら覚えるようになりました。それは地区委員会のご指導だけで、私達の自主的な主体性がなかったものによるものです。

一つの世界ジャンポリーを頂点とした行事に参加するだけの目的であり、BS本来の活動である。「人格健康技能奉仕」の陶冶であるべきものが目標の本質になかったものと痛感しているものです。しかし一挙に建直しすることは不可能であるため一つ一つ地固めをして行くことにしようと考えているものです。

新団委員が選出されBS活動について素人ばかりの集団ではあるがBS活動のよいことだけは確認している。従ってBS組織がある以上これを立派に育成し次代を担う青少年の育成のため、又清新な地域社会を希って、たとえ微力でも継続し拡大して行くために力を合わせてやってみようと言うことになりました。

そこで去る6月12日内田県コミ、三輪地区コミ、山中地区組織拡張副委員長の三氏にご足労をわづらわし、団会議にご出席を頂き基本のご指導を賜わり、大変参考になりました。

その席で6月16・17日の指導者研修野営に団委員が出席して少しでも実践を通じて体得し主体性のある活動が少しづつでも出来るようになることを目標に置き出席することを決めた次第であります。

私は発足当時団委員をしていましたが団委員長は非常に熱心でしたので頼りす

ぎ自ずから行動を起すことをしなかったことを反省しています。一人や二人だけが熱心ではだめで団委員会としての行動がとれないようでは本物ではないことを知りました。それはBS活動の研修や活動体験がなかったために行動が起せなかったものと思いい、今後は研修野営に参加したりボーイスカウトブック、日本連盟規約、指導者研修資料などの輪読会などを実施しながら団委員が互いに勉強していこうと言うことになりました。6月16日身仕度をして緊張した思いで研修野営に参加しましたが地区役員の皆様の導入態度が非常に良かったので緊張も次第にはぐれ、その雰囲気と同化されて行き抵抗もなく素直に行動がとれるようになりました。

私は会社組織に於ける地位とか格式権限などの重々ぜられる社会と、BSのモラルである善意、平等、協力、自主性、奉仕、向上、を中心に置いたそれとの差を身をもって体験したことは大きな収穫でありました。そして一般社会生活態度はBSモラルでなければいけないことを再認識しました。

BSの制度については有成会の機能、団会議、団委員会などの運営についても知ることが出来、今後の運営の役に立つ知識の修得が出来ました。更に進歩制度のプログラムの展開などについても従来は無意識であったが、スカウティングの基本計画と向上のための重要事項であることを知る事が出来ました。それはスカウトの心理をよく読み取った上でのプログラムであり進歩制度の運営でなければならぬことを知り得ました。

技能の面ではキャンプの設営、オリエンテリングなど興味深く会得することが出来た。

一般に私達の生活は理論が先行し行動が伴わないことが多いが、スカウティング活動はいつでも行動が伴うものであるだけに活動と言うに足るものであることを痛感しました。

最後にボーイスカウトと宗教について深い感銘を受けました三輪地区コミの落ち着いた声の中から、とかく無意識に過ぎてきたBSと宗教について、切々と説かれそのあるべき方向が示された。特に神仏を重んずるBSについて宗教とは何かについておぼろげにも把むことが出来たような気がする。ようするに正しい理解と認識を新たにする必要を痛感した次第である。

「すべてのものに感謝して生活する」が宗教心でありその実践は、国旗の尊重は正しい掲揚であり、自然愛護は美化運動であり樹木の愛護である。更に家族への感謝は黙祷である。

このような実践的行動を通じて宗教心を作り上げて行けばよいであろう。

又公害社会は自然を粗末にした結果である。スカウティングはその逆で自然と共に生き自然をより美しく帰すことが基本となっている。従って公害社会をなくして行く先兵としての、スカウティング活動こそ、貴重な運動であり現代社会に於ける有益な存在であることを再認識した。最後にお世話を下さった地区の役員の皆様に深くお礼を申し上げます。



リーダー研修野営に参加して

浜松第1団 佐藤 成子

野営の経験のない私は、興味と不安とが入り混った複雑な気持ちでこの研修に参加しました。ここでの一番の思い出は一日目の夕食の事で、包丁の代わりに、なたで調理した事です。本部からは一応なべ、かま、なた、のこなどの器具と食料品、資材が配給されましたが、この他に一泊二日の野営に必要な物は全て、個人で用意するようになっていました。(私は現地に着いてから、この事を聞いたのですが……)ところが、私の班の人は、それを知ってか知らずか、誰一人

として包丁やまな板を用意して来ませんでした。夕食の支度をする時になって気がついて、さあたいへん!! どうしようもありません。そこで考えついたのが、なたを使う事でした。この日の献立は豚汁だったので、何でもかんでもおなべの中に入れて煮てしまえばいいという事になって、(おなべの中には、なたで切った人参やじゃがいもがゴロゴロしていましたが……)何とか無事に一日目を終える事が出来ました。物は使用でどうにもなるという事の一つ、ここで学びました。

ここでは、他に進歩制度やプログラムの展開、スカウティングと宗教などの研修が行なわれましたが、反省させられる点やもっとよく考えなければならないという事がいろいろありました。

最後にとても残念だったのは、女性リーダーの参加者が少なかった事です。参加してみて、そんなに大変でない事がよく分かりました。又、経験するということは何か一つは学ぶ事があると思います。これからも機会がありましたら、又、参加したいと思います。

BS 浜松地区指導者 研修野営に参加して

可美第1副団委員長 山中 洋一

結成以来六年目をむかえた可美第一団も団委員長以下大半のメンバーがかわり新団員会の熱気に満ちた会議の席上で、地区指導者研修野営に参加する事が決まった。手続も済み、いよいよ6月16日になった。午後二時芝形野営場へ集合と云う予定に従い定刻丁度にすべり込んだ。

湖北に広がる大自然の山ふところに、あたかも造物主が野営場として、一沢一木一葉にまで、その妙をこらしたとも思われるコントラストをもって芝形野営場が私の眼に映じた。およそ先刻までの巷の喧騒とは打って違って、そこには梅雨空の雲間から洩れる午後の陽光に自然が静かに輝いていた。

開所式に続いて設営、食糧の受領、献立、炊事作業と、忙しさの中にも、自然との対話をしつつ多少こげついた御飯の香りを天与の味として、作業で空になった臟腑へ無心に送り込んだ。『同じ釜の飯を食った仲』とよく云われるが、全くの自然の中で、仲間が協力し合って作った御飯を手作りの食卓を囲んで食べる壮快さは、とても言葉で表す事は出来ない。

ようやく山の端に日も沈み、夜のとぼりを水面から上るもやがゆっくり誘い出すと、あたりは宵闇に包まれながら添黒の夜へと移る。進級・技能章についての細目に亘るミーティングは、各団の持味を次々に発表・交換し合い、意義深く聞くと共にあらためてB-P卿の進歩制度の偉大さに敬服した。更にこの制度を勉強し活用運営してスカウティングを拡大して行き度いと思った。

明くれば6月17日曇天ではあるが、山の空気はオゾンを十分に貯えて我々に朝を告げた。起床、洗面につづく乾燥、炊事片づけ等は昨夜の班集会で分担を決めておいたので、まことに手際よくすんだ。

第一班の仮班長として先輩諸氏の御指導を仰ぎ、時間に追われながらも作業を推めることが出来、朝礼に駆けつけると、一つ一つ納得のゆく講評を受け、一層の努力を心に誓っているさなか、低調ではあるがまあ優秀と云う班表彰を我班が受け、表彰の名譽は次第に御指導を受けた諸先輩への感謝の気持ちに変わっていった。

日曜礼拝は各宗派があろうと思われたのでどんな形で行うのかと関心をもっていった行事の一つであったが、それはこうして研修野営に参加出来たのも家族の協力によるものであると云う説明があり何のわだかまりもなくごく自然の内に、感謝の念を一分間の黙禱に託した。この時程、自分が生きていると云う事と離れた家族への感謝の気持ちが、すなおに湧いた事も経験のない事であった。大自然の力とスカウト活動とが一体となったこの様な気持ちにさせて呉れたのだと思った。

その後のスカウトと宗教についての講義も、私自身あまり宗教に関心が深くなかっただけに、多くの問題を投げかけて呉れたし、スカウト活動の大きな命題であることも、良く理解出来た。

期待していたオリエンテーリングがいよいよ始まる。シルバーコンパスの使用法について説明を聞いたあと、各自の歩測確認をして、スタート時間を待った。ゼッケンNo.1・スタート順位1番、頑張らなくてはとファイトが盛り上がる。細江1団の森口副長と浜松15団の堀内副長と私の3人が第1組で出発の合図と共にスタートを切った。写真も、もどかしく第1ポイントへ向けて駆け出した。第1組の名譽にかけても後続の組に抜かれてはならぬと各々が張切って第1ポイントを通過した。第2ポイントの手前で堀内副長が二手に別れてポイントをアタックする方法を提案したので分離アタックを試

みたが、これは結果的に全くの失敗であった。我々が第2ポイントへ到着した時呼笛を使って堀内副長を捜したが応答は全々なく、時間は経過していくし、後続組も接近して来た。「先行しているに違いない」どちらが云うでもなく、第2ポイントへ心を残しながらも第3ポイントへと速歩でむかった。競技中はポイント捜しと堀内副長捜しとで忙しく、なお後続組に抜かれまいとするあせりが、余計に暑さを感じさせた。第7ポイント通過時はまことに滑稽な報告をしながら通過せざるを得なかった。「1名行方不明」と。

第8ポイント前で堀内副長も姿を見せ大ハッスルでポイントを通過しゴールへ走り込んだ。タイムは2位であったが分派行動はどんな事情があってもしてはならないと肝に命じた。またポイントフラッグの記号の確認は、いくら急いでいるとは云え確実にすべきだと痛感した。

年間プログラムについてのミーティングもその基本的な問題への取組み方、第3日曜日の家庭の日等、夫々意義深く今後のプログラム立案に大いに参考にしようと思った。

撤営も順調にすすみ、点検を受けた時つい先刻までこの場所で人が生活していたと云う痕跡すら感じられない状態に私自身も驚いた。自然を借りて生活しそれをまた元の自然に戻したと云う満足感が我々の気持ちを更に浄化して呉れた。

研修野営に終止符を打つかの様に閉所式が始まった。忙しく楽しかった行事の一つ一つが回想され霧雨けぶる中で国旗が降納された。初めて会い同じテントで共に生活した者達が、あたかも10年の既知の如く互いの健康と活躍を祈りつつ、雨あしが一段と強くなった芝形野営場をあとに帰路についた。

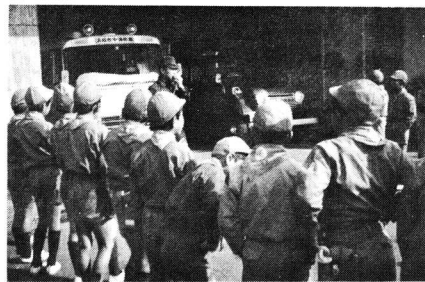
浜松第7団から

昭和47年12月10日、浜松第7団では団員リーダー・父兄・BS隊・CS隊全員6ヶ班に分れ和地山町・幸町・萩町・泉町・初生町の道路で、道路標示、カーブミラー等の清掃奉仕を行いました。



清掃奉仕中のスカウト

消防署を見学し、署員の説明を聞くスカウト達



昭和47. 11. 27

浜松第15団カブ隊がじゃがいもを作りました

じゃがいも作り

浜松第15団カブ隊1組

山中 将

ぼくたち15団カブ隊は、3月の中ごろから6月の終りごろまでジャガイモのさいばいをしました。3月の中ごろ、かりた畑へいってジャガイモを植えにいきました。

そこにはすこし草がはえていたけど、とてもいい土地でした。まず、はじめにぼくたちとおとうさんとくわを持ち合いおとうさんに教えてもらったりしてたがやりました。つぎに竹をつかってうまく間をあけ、それから、しるしをつけて、そこをすこしをすこしあげました。それから農家のおばさんにイモの切り方、植え方、土のかけかたを教わりました。そして始めに、おばさんに見本をみせてもらいました。それから、めいめい、イモをとりあい教えてもらったとおりにやりました。ほんとうはジャガイモの切り口に、はいをつけるといいんだけど、都合によって、はいをつけることができずでした。やっとジャガイモなえをおきおわりしました。今度は少しむずかしく力がある土をかけるしごとなので、それはデンダットのおとうさん方がやってくれました。そしてやっと植え終わりました。

しばらくたちました。しかしスカウトたちが五月ごろに一度草取りに行きました。そのときは、まだ、そんな暑くなかったので草はそんなに、はえていませんでした。草をぬいて、その一部分をこやしにしました。それから、めかきもしました。いいめだけを二本位残してのこりは全部ぬいてしまいました。それは大きなイモをとるために十分によい分がいきわたるようにするのです。

そしてさっぱりしてから化学肥料をやりました。イモの植えたところに直せつかけないように横の方にかけてました。十分に肥料をかけて帰りました。

いよいよ、取り入れの日が来ました。始めに、おじさんたちにくわで土をほりおこしてもらいました。それから、ぼくたちが手に手にシャベルを持って、ていねいにイモにきずをつけないようにしてほっていきました。イモは下に行くほど大きくなりました。しかし北がわでは、あまり大きいイモは取れませんでした。それは北がわのすみに草がたくさんはえていたからです。それと日に当たる時間も少ないからです。そのてん、南がわには草もほとんどなかったからです。その上、日に当たる時間もたいへん大きなジャガイモができました。友だちが肥料をあやまってこぼしたところなどは直けい15センチメートル位ある大きいジャガイモもできました。どんどんほり上げてみると一つのめから多い物では10~20位イモがつかしました。予そうより多くとれたので、みんなで分けても、まだ残りました。ですから、うちには合計 150こくらいあって一年分位あります。

今度はジャガイモにつづいてサツマイモを作ることにしました。今度は水はけがよいように土を山のようにつんで植えました。くわでひっかいて高くして、それから水を十分にまいてサツマイモのなえをしっかりとうえました。肥料がわりに北の草を取って横において土をかぶせました。

あとから、また水をたっぷりやって終わりました。

一つのジャガイモでも作ることは大へんな苦ろうなことであるとわかりました。

じゃがいも堀り

浜松第15団カブ隊3組

小杉 知秀

ぼくはジャガイモがすきなので、ジャガイモが、できるまでをまっていた。

あるスカウトが一つのところにひりょうをたくさんやったので、とてもジャガイモが大きくなった。しゃえいときも

ジャガイモカレーだったので、ぼくはとてもよかった。ぼくはしゃえいとき、おかわりをしようと思ったが、食じの時間が終わったのでしようがなく、たべるのをやめた。ジャガイモほりのときは、暑くて、もうやめたいという気持ちでいっぱいだった。でも、とちゅうで帰ればたいちょうがどなるのでしようがなかった。帰るとき二ふくろももらったけどもちきれなく、友だちにもってもらった。家へ帰るとおかあさんが、「もっともっとほればよかったのに」といった。でも、そんなにもちきれないのでってこなかったとせつめいした。それからというのは、まいばんジャガイモだった。ぼくは、あれほどすきだったジャガイモも、まい日、たべていたのですきだったのもきらいになってしまった。

ジャガイモほり

浜松第15団カブ隊3組

佐藤 博

きょうカブスカウトでジャガイモほりに行った。ぼくたち三組は、中村君の家の車にのせていってもらった。少したつてからほりはじめた。ほっていると大きいや小さいのが出てきた。でも時間がたつてもなかなかたくさんにならなかった。見ていると、おとなの人がクワで土をほっていた。するとたくさんのイモがごろごろとこがってでてきた。ぼくたちは、いそいでそれを一つの場所にあつめた。たくさんたまったので、今度はそれを車の近くへはこんだ。少しはこぶ人は、らくだけど、たくさんはこぶ人は、かおをまっかにして力を出していた。

つぎに、サツマイモのなえをうえた。なえは、き緑色ですこし白かった。こんどはこの畑にサツマイモができるのかと思った。なえは一本一本ていねいにうえてから、土をたくさんかぶせた。これもしっかりと育ててほしいなと思った。

各団の活動の主なうごき

4月28, 29, 30	浜松第19	BS	富塚19団野営地	6月16, 17	浜松第14	BS	
5月26, 27	浜松第1	CS	青少年の家 舎営				成子キリスト教会 隊内野営
〃 〃	浜松第4	BS	〃 野営	6月23, 24	浜北第4	BS	森林公園 野営
〃 〃	浜松第12	BS	〃 〃	〃 〃	浜松第12	CS, BS, SS	芝形 〃 (舎営)
6月2, 3	浜松第16	BS	〃 〃	6月24	浜松第15	BS	天竜川 親子ハイク
6月9, 10	浜松第1	BS	〃 舎営	6月30, 7月1	可美第1	CS	可美公民館 舎営
〃 〃	浜松第15	BS	〃 野営	7月1	浜松第18	BS	中田島 親子大会
6 〃 〃	浜松第20	SS	移動野営	7月7, 8	浜松第16	BS	気賀尉ヶ峯 夜間ハイク
6月16, 17	浜松第15	CS	青少年の家 舎営				※ 届出のあつた分のみを記載しました。

* 浜松第12团团行事 *

~~~~一泊舎営~~~~

芝形山青少年訓練センターにて

6月23日・24日

6月「僕は探険家」と題して探険家の装備を組集会で製作した。その探険隊の小道具、炊事用具を持ちバス一台と各父親の協力で乗用車に分乗、午後3時30分引佐町芝形山青少年野外訓練センターに向う。

バスの中では歌や簡単なゲームに興じ楽しく目的地近くのバス停に到着下車。徒歩で約15分野外訓練センターに到着。団委員長の挨拶、隊長の2日間の予定が発表された。

カブスカウト達は思い思いの木の葉を収集し石臼細工にとりかかった。その直後雷雨に見舞われ作品の出来栄は?であった。

各自持参の夕食を、各組毎にまとまり談笑しながら済ませ、用意してきた探険隊の小道具を各組長が説明し、それを身につけキャンプファイア会場へ。

BS隊長の進行でキャンプファイアの一時をボーイ・シニアのメンバーはテレビのコマーシャルソング、カブスカウト達

はスタンツのうち興じた。赤々ともえるキャンプファイアを開んだ70名が一つの心となり、午後9時30分カブスカウト達は就寝。お母さん達は別室で隊長を囲み舎営の心構え、PMの役目等について話し合った。その間雷雨に見舞われてテント張りが遅れ、夕食の支度も出来なかったボーイ・シニア隊のメンバーはキャンプファイアの残火で御飯炊、午後11時過ぎ暗やみの中でおそい夕食。これも訓練とわりきり目と日は笑い腹は泣いていたことであろう。

2日目、上天気、まっ青な空、緑の山山が美しい。お母さん達は時間より早く起き出して昨日用意したカマドに火をつける。分業で御飯炊、味噌汁が出来た、スカウト達と食べる野外での朝食は一。新人隊のスカウト、お母さん達ほどの様な感想を持たれたらどうか。全体の朝の集いの後、午前10時探険隊(カブスカウト)出発。ボーイ・シニア隊のオリエンテeringでのチェックポイントのいくつ

かを見せカブスカウト達に説明、そこを関所としてナゾナゾを解明させ通過、午後12時30分皆元気よく野外センターに到着。

沢のほとりで昼食後、最後の課題午前中に歩いて来たところの地図の作成、各組はDMと一緒に出発点から一人一人おぼえておいた関門を夫々書き込み、方位組の名を入れ完成。皆んなの前で発表、磁石の見方もしっかり身についた。どの組も方角の間違ひもなく立派な地図が出来上ったと隊長からの賞賛の言葉。

意義深かった一泊舎営は終わった、山の空は変りやすい、雲が広がってきた。ボーイ・シニア隊を残しカブスカウト達はハバザックを背負い急ぎ足でバス停に向う。午後4時帰派。

浜松12回CS D・M手帳より

浜松第12団壮行会

住吉青少年の家広場

48. 7. 11

スエーデン・ナショナルキャンプ日本派遣団の一人として浜松第12団からシニアの鶴見君が参加することになった。7月11日住吉青少年の家広場で浜松第12団による壮行会が開かれた。団委員長代理として金森氏を始め、BS、CSからも代表者が激励の言葉を送り鶴見君からも旅行日程の報告があった。

眼を輝かせて見守るスカウト達の中からやがて鶴見君の様な立派なスカウトが後に続く事であろう。



指導者研修野営の一コマ
立かまど作り

“海外派遣だより”

☑ スエーデン・ナショナル・キャンプに鶴見一哲君(12団SS隊)は7月18日午前7時55分、新幹線上り浜松駅フォームにおいて12団関係者および、地区関係者に見送られ元気に出発、ロンドン、ヘルシンキ、ストックホルム、パリ、ミュンヘン、ジュネーブ、ローマと旅を続けながら8月19日帰国の予定、元気で帰国される事を祈る。

☑ 第8回アメリカ・ジャンボリーに、鈴木正幸君(10団SS) 袴田祐司君、青島茂君(15団SS) 塩谷勲君(20団BS)の四君は、28日午前9時45分、団関係者、地区関係者多数に見送られアメリカ西部、アイダホに向け元気に出発。サンフランシスコ・スポークンソートレーク・デンバー・ヒルモント・アルバカーキ・シカゴ・ナイヤガラ・ニューヨーク・ワシントン・ロスアンゼルスと旅を続け乍ら、8月27日、元気で帰国される予定です。

また同日午前7時6分、同じ浜松駅フォームにおいて関係団に見送られ乍ら浜松18団SS鈴木幸夫君は、東部アメリカに向け元気に出発、ニューヨーク・ワシントン・ピッツバーグ・ナイアガラ・シカゴ・アルバカーキ・ヒルモント・デューバー・ソートレーク・サンフランシスコ・ロスアンゼルスと旅をしながら、8月27日帰国の予定です。六君の健康な旅を祈る。

ボーイスカウト

小杉勇司

ぼくがボーイスカウトに入ってもう1年ぐらいになる。なぜぼくがボーイに入ったかという、体があまりにじょうぶでないのでボーイでも入って体をじょうぶくしろといわれたからである。ぼくもボーイには前からきょうみをもっていたからいやではなかった。入ってみると、みんな親切ないい人ばかりで、これならなかよく楽しくやっていると。よかつたことはまだある。それは今迄のぼくは、困っている人がいても、かわいそうだなと思うだけで、なにもしてやらなかつた。でもボーイに入ってから募金とか、奉仕などをやっているうちにかわいそうながいれば少しぐらいのことはできるという気持ちになり、少しぐらいは実行できるようになった。それにキャンプなどで、ごはんのたき方や、火のつけ方などをおぼえて本当にボーイスカウトに入つてよかつたと思ひ、これからも、なんでもはげかしがらずにやっつけていきたいと思つている。

浄土宗ボーイスカウトのハワイキャンピング

今回浄土宗スカウト連合協議会の主催のもとに次の如き主旨のもとに浄土宗ボーイスカウト・ハワイキャンピングが計画され、BS浜松第1団よりRS吉沢俊道、BS吉沢正幸の両君が参加することになりましたのでお知らせ致します。

(主旨)開宗800年記念を目前に控え、青少年教化事業の一環として浄土宗スカウト並びにハワイ浄土宗教団スカウト相互の交換を重ね、理解と深睦を深めてまいりましたが、更にその成果をふんまえて浄土宗スカウトの第2回ハワイ派遣を計画されたものであります。

(日時)昭和48年7月22日～8月6日

故稲垣文雄君の死を悼みて

浜松地区副委員長 宮沢 広士

稲垣君、あなたは どうして、こんなに早く奥さんや子供さんと数多くのスカウト達をおいて行ってしまったのでしょうか。私達は今、只々呆然としています。あなたが三輪悦爾さんと共に、ボーイスカウト創立について私に相談をもって来られたのは昭和31年だったと記憶しています。あなたの誠意と誠実さに動かされて、数人の同志と共にボーイスカウト浜松第7団を結成したのは昭和33年の4月でした。以来あなたは第一線のBS隊長として専断実行、誠実なご努力には全く頭の下る思いでした。ち密なプログラムの作製から、詳細にして正確な記録作り、そしてあなたの得意な印刷の技術。あなたは全く貴重な存在だったのです。

あなたは、この地区のボーイスカウト生みの親でありました。暴風雨の中で泥まみれになってスカウト達と私を出迎えて下さったアイパ野のジャンボリー、いくつかのジャンボリーや渡川の合同野営など同じテントで数日を過しましたが、あのアイパ野の泥んこの中のあなたの顔が何故か一番深く印象づけられています。

昭和38年11月新しく12団を設立することとなり、幾多の困難を乗り越えて、新しい州作りに奔走した日々事も今は悲しい思い出となってしまいました。あな

たの奥さまとも不思議なご縁で私の経営する音楽学校に8年間も協力され、あけみちゃんや、じゅん子ちゃんも私の幼稚園を卒業されました。あなたのご一家と私とは何か深い縁故があった様に思われます。私より十数年も年若いあなたが、どうしてこんなに美しい家族のみなさんを残して旅立ってしまったのでしょうか。天のなせるわざとは申せ惜しんでも惜しんでも余りある人生でした。

スカウト運動は5年や10年でやめるべきものではない、一生つづける運動であると先輩達から教えられました。あなたは文字通りそれを実行されたのです。言葉すくなく黙々と実行されるあなたの様な人こそほんとうのスカウターであったと思います。

大きなスカウトマークが飾られ、三本の親ローソクから点火された夜の野外に於ける団の結成式、あの時以来あなたと三輪さんと私とは切っても切れない出来事のないスカウトの誓いによって結ばれたのでした。その一人であるあなたが今、忽然として幽明境を異にされました。今はあなたにお別れの言葉を述べ乍ら嗚咽にむせんでおります。

あなたに指導を受けたスカウト達は今大学に在学中のもの、既に卒業して実社

会に出ている者、人それぞれですが立派に成人して社会の為に活躍しております。スカウト運動の創立者ベーデンパウエル卿も最後のメッセージの中で「真に幸福をうる道は人々に幸福を与えることである」と言いのこされました。あなたは忠実にこの教えを実行された人であると私は思っています。

稲垣君、あなたは若くして散ってゆかれましたが、あなたがのこされた数々の教訓や業績は永遠にその光を失うことにはないでしょう。心安らかに眠り下さい。あなたの奥様も子供さんも今は全く悲嘆にくれておられると思います、でも、やがて必ずこの悲しみから直立ってあなたの残された志をついで下さることでしよう。稲垣君、今、私は悲しみの余り多くを語ることが出来ません、あなたが入院された事すら知らなかったのです。見舞に来られた人々を病院の玄関先まで歩いて見送られた事、前日まで詳しく日記をつけられていたことなどを挿聴して、あなたのお人柄をしのんでいます。

あなたの人格からにじみ出た数々を最後のスカウト達に伝えてゆき度いと思っています。心安らかに昇天されん事を祈念して追悼の言葉といたします。

舎 営

可美1団くま3組 友田 行彦

ぼくたち、カブスカウトは、6月23日午後1時半から、若林の公民かんに集まってリュックをおきスリッパをもって、中部印刷に行った。見学する前に、あんないをしてくれる人がきた。ぼくたちはその人の後について、写真をとるところや本をとじるところを見ました。いくつも大きな機械ばかりあったのでおどろきました。

公民かんに帰ると、すぐナイフとペーパーをもってすわ神社に行きました。すわ神社につくと、国旗けいようをして、さいばしを作りました。作っていると、大雨がふってきたので、しゃむ所に入りました。ぼくは、そのとき、へんな天気になったなと思いました。

そしてまもなくして、雨がやんだので外に出てキャンプファイヤーをかこんで隊長や副長、デンチーフの人がいろんな歌を教えてくださいました。そのときとても楽しかったです。

キャンプファイヤーが終わってから、公民かんに帰ってねぶくろをだして、歯をみがいてねました。ねるとき、隊長がかい中電とうをつけたりむだ口をすると、朝ご飯を食べさ、ないと言いました。で

もぼくは、よくねむれないのでむだ口をしてしまいました。

ぼくたちは、とてもむだ口をしたから隊長の言うことをきいてないと思いました。

朝おきると、公民かんのそうじをしてリュックをかついて、すわ神社に行くところちゅう学校で顔をあらいました。顔をあらったらとても、いい気持ちになりました。すわ神社につくと朝ご飯のしたくをしました。朝ご飯のしたくができると、隊長がきのうのやくそく守れなかった人は前にでなさいと言ったのでぼくは、でました。そして隊長と団委員で食べてもいいかとそうだんをしていました。そのときぼくは、やくそくを守れば、こんなにはずかしいめには、ならなかったと思いました。

朝ご飯を食べてから、高塚のグラウンドにソフト・ボールをやりに行きました。ぼくは打てなかったけど、あとの人が打ってくれた。でも負けてしまった。そのとき、とてもくやしかった。でもぼくのチームには、デンチーフが入っていませんので入っていたら勝ったと思います。帰るときに、優勝したチームに木で作ったペンダントをわけた。そのとき、ぼくもペンダントがほしかった。そして登録証をもらって帰りました。ぼくは、この二日がとても短く感じました。

舎営と工場見学

可美1団くま2組 竹山 敏久

お父さんと仕事、6月のテーマである。

6月23日舎営をかねて、父親の仕事の理解をするため、印刷工場の見学に行った。

情報時代の先たんを行く仕事だけあって多彩な色と、機械化された工場、皆の神経とで、僕達の生活に役立って行くのです。僕が見過ぎて通るポスター、新聞の広告にも、これから注意して見て見ようと思う。

見学後は、今年初めての舎営である。新しい仲間の三年生は、大はりきりです。遠くに行つて、つかれるより、近くで、心にも不安のない所で、やった事は大変良い事と思った。

朝食のサンドイッチは、なかなかイカシタ。

ソフトボールの試合もなかなか楽しかった。地理的にも心配のない所でやったため夜もなかなか眠れないのにも、かかわらず、つかれもなく本当によかったと思いました。

夜、電気をつけてしかられたのは失敗だった。

これからも近くでスカウトの人達が皆出席できる所でやってほしいと願っている。

舎営に参加して

可美1団しか4組 阿部 俊明

ぼくたちカブスカウトは、6月23日、村内舎営をしました。ぼくは初めてなので前から、とても楽しみでした。去年参加しなかったからです。家族とはなれて泊った事もないし、持物の整理が出来るか少し心配でした。

舎営の前に、家の近くの中部印刷を見学しました。いつも外から見ているけれど、中へはいったら、とても大きいので、びっくりしました。写真を写す所や、印刷する所などを見せてもらいました。ぼくが一番気に入ったのは、ひもをしぼる機械です。面白いので、二回見せてもらいましたが、早すぎて、よくわかりませんでした。しぼるのと、熱でとかして、ひもをはりつけるのと、両方あるそうです。あとで、いろいろ質問をして教えてもらいました。

公民館へ戻って、いよいよ舎営の準備です。まず、諏訪神社へ行って、さいばしを作りました。と中で、ひどい雨になったので、近くの家で、雨宿りをしました。その家で弁当を食べ、雨がやんだので、キャンプファイヤーをしました。針金の上からおりてくる火が、とてもかっこよかったです。そこで、歌を唄ったり、遊んだりして最高でした。と中で、お父さんが弟をつれてきました。弟も、はしゃいでいっしょになって遊びました。

がありました。小さいのはドイツ製、大きいのが日本製と言うことでしたが、とてもやかましくて説明がよく聞こえませんでしたが一分間に百八〇枚するそうです。松びしや西武や、スズキの広告がすりあがり、次の所で千枚位づつ、「スパッ」という音がして、かんたんに切れていましたが、光線がでていて手が行くと機械が自動的に止まるようになってい

るそうです。そのほか、しぼるのや、折る機械などいろいろ見学しました。朝の新聞の折りこみ広告も一枚一枚とても大ぜいの人の手がかかっているのだと思いました。

夕立ちのようなきつい雨にも会いましたが夕食後、キャンプファイヤーで記念品をもらったり歌を歌ったりして、とても楽しかったです。夜は三年生たちが初めての舎営でうれしくて、なかなかねわれませんでした。



あとで、おとうさんたちにスカウトが作ったプレゼントをあげました。

9時ごろ、公民館へ帰ると、おかあさんが様子を見に来ました。毛布のね袋の中へ入ってねたけれど、暑いのとさわがしいので、なかなかねられません。それなのに、次の朝は4時半ごろ目がさめてしまいました。6時の起床までがまんしてねていました。

小学校で、ラジオ体操をして、諏訪神社でサンドイッチを作りました。吉田君のおかあさんに「うまいね」とほめられて、とてもうれしかったです。食べたらすごくおいしくてごきげんでした。けれど、たくさん作りすぎてしまったので、家へおみやげに持って帰ることにしました。

そのあと、高塚のグランドへ行って、ソフトボールをしましたが、負けてしまって、くやしかったです。

それから、お菓子やアイスを食べたり、クイズをやったりして、又諏訪神社へ戻ってお昼ごろ解散しました。帰りは、リュックが重くて、家へ帰るまでに、へこたれそうになりました。

やっと家へついて、持ち物を調べたら、忘れ物がなかったので、ホッとしました。

はじめての舎営で、とても疲れたけれど、楽しいことばかりで、今度はもっと遠くへ行きたいなあと思いました。そして、カブスカウトにはいて、やっぱり良かったと思いました。



見学とソフトとペンダント

可美1団しか6組 壺屋 彰一

中部印刷を見学して、ぼくは新聞の中に入ってくる広告が、色々の作業と多ぜいの人々の協力によって初めて出来上がっているのを見て、おどろきました。家の人たちは、新聞がくると広告は見なしすててしまいます。

中部印刷のおじさんや兄さんたちのしんげんに働いて、出きあがったことを、父さんたちについてよく見るように、言おうと思います。24日に高塚グランドで、ソフトをやった。一回目も勝ち二回目も服った。そして優勝した。そのあと、おやつで、チュウチュウとおせんべいとホワイトロリータというおかしをもらった。おいしかった。そして、すわじんじやで表彰してもらった。そしてペンダントを

カブ見学と舎営

可美1団くま5組 鈴木 和彦

6月23・24日(土・日曜日)に行ないました。午後1時半に若林公民館に集合と言う事でしたが、学校から帰って、食事をしたので、とてもいそがしかったです。

まず、中部印刷株式会社を見学しました。始めに休けい室で社長の話を聞いてから二組に分れて見学しました。まず最初に写真を写していました。上の方に白いかさをさしているの、へんだなあと思いましたが光を反しやしてよほど明るくなるからだそうです。

カメラはふつうのとは、ぜんぜんちがってました。

次は字と写真を一しょに写す所で、へやぐらいの大きいカメラです。

次は、そのフィルムをかわかすへやでした。せんたくばさみで留めてかわかしている物もありましたが、だいたい自動かんそう機で15分位でかわいて出てくるそうです。

次は、アルミの板がたくさんありました。おじさんが見せてくれたら、鉄道の時間表がのっていました。それを見るとこぼこがないので印刷ができないと思うと、おじさんはこの青い所だけ色がついて印刷できるのだと教えてくれました。とても不思議に思いました。

次は印刷工場です。大きいと小さいのもらった。そのペンダントは、だんいいん長さんと、ふくだんいいん長さんが作ってくれたまごころのこもったペンダントだった。そのペンダントを作りながらよいカブスカウトになってほしいといいたかったにちがいない。ぼくのつくえの左に、ペンダントをおいた。今まで、ぼくは勉強していても、むずかしいところや、めんどくさいところになると、左手のびマンガの本を見てしまいます。そんなとき左手にペンダントがふれるとはずかしくなってしまいます。ぼくは、ペンダントをにぎり、よい子になろうと決心しました。



オープン!!

県立観音山少年自然の家

雄大な天竜川の流れと、清らかな都田川は、まんまと水をたたえ、かぎりなく青く、大自然につつまれた観音山は、四季おりおりの姿を見せて、私たちの少年自然の家は、豊かな野趣につつまれて、少年たちの喜びの天地をはぐくむ——。これは少年自然の家のパンフレットの表紙に書かれた文句である。

ボーイスカウトを代表して6月15日オープンの開所式に参列させていただきました。

当日は、県知事さん始め市長村長さん、営林署、建設関係、報道関係、県関係者、市町村関係者、各種団体代表者、学校関係、放牧場職員等々300余名が参加され、盛大に開所式を迎える。

先ず、県幼少年課長さんの開式のことばに始まり、県教育次長さんの経過報告、県知事さんのあいさつ、そして県教育長さんのあいさつ、地元県会議員のあいさつ、そして喜びのことばとして、上阿多古小学校6年生4名の代表により力強くよろこび



(落成開所式)

のことが捧げられた。

県知事さんを始めとする挨拶のなかから、うかがえた言葉に、学校教育に特に欠けている問題として、人間教育があげられていた。自然の中での人間教育、私も、この言葉に力強く協賛の意を表した一人である。

正面から南方を望むと眼下に都田川が流れておる。数年後久留米木を中心として、都田川農地防災ダムが建設され、人造湖が出来ることになるとの事である。懐かしい都田川に添った道路も水の底になるのも時の問題であり、一しお関心を寄せられた一つでもあった。県道のつけ替え工事が山の中腹をぬって建設が進んでおる。これを思うと観音自然の家から望めた風景も、人工により、いつの日か大きく変ってくる事だろう。

世の移り変りで止むを得ぬとしても、少くとも、少年たちの夢をはぐくむ自然が、はかいされないように祈った次第である。

また、パンフレットの中に、観音山少年自然の家とは……自然に親しむ機会が日ごとに少なくなりつつある子供達を、大自然の中につれもどし、さまざまな体験を重ねさせることによって、子どもたちの夢を豊かに育てようとする教育施設であると結んである。

いつの日か利用される事をのぞみます。(三輪悦爾記)



ファイト・いちに!!

浜北第4団 中村 豊

去年の夏、浜松地区合同野営が渋川で行なわれた。4団からは7～8名参加したが、中学校の登校日などで一時は3名になった時もあった。

キャンプの毎日は、朝食のしたく、食事、後かたづけ、昼食のしたく、食事、後かたづけ、夕食のしたく、夕食、後かたづけ、食事、食事の毎日であった。

午後になると決まって夕立が降り、キャンプ地は、どろぬまようになっていた。テントの中に水が入ってきて困ったときもあった。

3日目のハイキングも雨の中から始まった。最初のうちは、みんな元気よく歩

き始めたが、つかれてきて、だんだん列がみだれてきた。昼食の頃になると、てんでばらばらだった。

ハイキングもおわりに近づきキャンプのそばへくると、1団の外山隊長がみんなに足並みをそろえさせた。初めは、みんなそろっていなかったが、だんだんそろろうようになってきた。みんなで、「いちに、いちに」とさけびながら歩いた。そのうちに1団の人たちが、「ファイト、ファイト」とさけびだした。いつしよになって

「ファイト、いちに、ファイト、いちに」になった。道が上り坂になったので、だ

んだん苦しくなってくる。あいにくザックを持つ番がぼくになった。ザックをしょっているのも、ものすごく苦しい。ぼくのさけぶ声が小さくなった。あまり苦しいので、ほかの人と代わってもらった。

テントが見える。みんなが見ている。キャンプ地に入ったのだ。あと少し、あと少し、と思いながら、

「ファイト、いちに」と声を出して歩いた。からだか熱い。顔は赤くなっているだろうと思った。ぼくたちのテントが見える。ばんざーい、とうとうついたのだ。止まると、からだか前よりいつそう熱くなった。からだか汗でびっしょりだ。

みんなの顔をみると真赤で湯気が立っている。がんばり通したあとの満足そうみな顔が、湯気の中で笑っていた。

うごき

- 3月19日 西部、中央ブロックリーダー会 (法林寺)
- 22~25日 地区DC研修会打合 法林寺
- 29日 地区DC研修会本部員打合 法林寺
- 4月3日 DC本部員打合 法林寺
- 7日 地区コミ会議 県民会館 (名倉惣)
- 7~8日 地区DC研修会 浜松市青少年の家67名参加 (1泊2日)
- 9日 浜松まつり駐車場奉仕打合、市役所501(竹村、三輪、後藤)
- 11日 中央ブロックリーダー会 法林寺
- DM研修会打合 法林寺
- 13日 地区コミ関係者会議 (平田町ちどり)
- 14日 県西部野営行事委員会 法林寺 (県大会等)
- 15日 地区DM研修会 東部公民館 (中央ブロック34名参加)
- 16日 野営行事委員会 法林寺
- 18日 市キャンプ講習会打合 市役所体育保健課 (内田、三輪、後藤)
- 20日 団委員長会議 法林寺 (総会等)
- 21日 DM研修会打合 南部ブロック
- 24日 野営行事委員会反省会 法林寺
- 25日 地区内コミ関係者会議 法林寺 総会準備等
- 27日 地区総会 (48年度) 法林寺
- 28~29日 県シニアリーダー研修会 県青少年センター (三輪、井ノ口牧野、新井、斎藤、野口、杉山、内山、坂東、田光、中島平野)
- 29日 第2回DM研修会 南部ブロック 可美小 (34名参加)
- 28日 県大会 西部会場 (掛川第1小学校) 下見 (竹村他)
- 5月3日 ウットパッチ研修所静岡第6
- 6日 期カブコース開設 浜松市青少年の家
- 12日 地区コミ事務長会議 静岡魚磯本店 (三輪、牧野、外山、杉山)
- 13日 第3回DM研修会 浜北森林公園 浜北ブロック (17名参加)
- 県大会 西部ブロック 野営

- 行事 コミ関係者会議 法林寺
- 15日 地区シニアリーダー会 法林寺
- 19~20日 日連総会 (全国会議) 東京富士銀行本店 (内田嘉、三輪)
- 20日 第4回DM研修会 住吉幼稚園 西部、引佐ブロック (47名参加)
- 21日 地区野営行事委員会 法林寺 (21名出席)
- 5月23日 地区内コミ関係者会議 法林寺
- 24日 シニアリーダー研修会 市川重雄事務所 アドベンチャーキャンプ他
- 25日 中央ブロック研修会 イザカヤ
- 26日 県大会西部地区打合会 磐田石川建設事務所 (野営行事) (竹村、鈴木宗、三輪、牧野、小野田)

- 後藤他
- 23日 県連理事会 (内田時) 静岡
- 26日 元副コミ稲垣文雄氏葬儀 市葬祭会館
- 7月4日 地区野営行事委員会 法林寺 (合同野営、地区大会等について)
- 5日 シニアリーダー会 法林寺
- 7日 地区コミ会議 静岡県民会館 (三輪)
- 7~8日 入野婦人会キャンプ指導 芝形野外活動センター (竹村、井ノ口、宮沢、外山、杉山、奉仕)
- 9日 組織拡張委員会 法林寺
- 10日 地区内コミ会議 法林寺 県下三店需品部打合懇談会 県民会館 (三輪、牧野)
- 12日 B Sリーダー会 (合同野営参加隊長会議) 法林寺
- 15日 朝霧キャンプ場下見及び交渉 (竹村、鈴木宗、齊木、小野田、中島、八木本、三輪)

原稿募集

スカウト浜松第53号用

- 野営参加感想
- 各団の行事に関すること
- スカウトに関すること何んでも結構です
- 原稿メ切 9月末日
- 発行予定 11月初旬

- 27日 県連総会 静鉄会館
- 6月2日 地区コミ会議 静岡旧県連事務局 (三輪)
- 5日 6 団入隊式 東田町公民館
- 9日 事務長会議 静岡 (牧野)
- 10日 県大会 西部会場 掛川中央小学校 (3,500余名参加)
- 11日 地区リーダー研修野営本部員打合会 法林寺
- 12日 可美1団 説明会 可美役場 (内田嘉、山中将、三輪)
- 13日 リーダー野営本部員打合 法林寺
- 15日 県立観音少年自然の家オープン (三輪、浜北坂東、三ケ日高須)
- 16~17日 リーダー研修野営 芝形野外活動センター (35名参加)
- 17日 スズキ自動車労組R指導 (宮沢) 新居
- 19日 市キャンプ指導 (講義) 体育館 (内田嘉他)
- 22~24日 市キャンプ講習指導 (渋川川宇連) 内田嘉、三輪、外山、

あとがき

- 新年度の組拡委員にお集り頂いて「スカウト浜松」編集会議を開いたところ、いろいろ建設的な意見が出てうれしかった。
- 従って第52号の記事集めも申合せにより順調に集まった。何事も大ぜいの人たちの協力が必要であることが痛感された。
- 久しく絶えていた「紹介」欄が復活することが出来た。奉仕活動をつづける人たちの生いたちや側面からみた姿を伝えることも相互理解の点で大いに役立つであろう。
- いよいよ今年も夏季のキャンプやいろいろの訓練の場が展開される時期となった、くれぐれもスカウトの安全には留意されるよう願ってやまない。
- 今年の地区大会は秋の一日をフラワーパークという話が出た、場所もよし、時もよし面白い企画が生れるであろう。成功させたいものである。

(T・S生)

発行所

第52号

日本ボーイスカウト浜松地区事務所
 浜松市利町70-4 児童会館内
 TEL 54-0178
 編集発行責任者 杉山友男
 昭和48年8月20日発行